

一人一人が互いに認め合える生徒の育成

～ソーシャル・スキル・トレーニングとICTを活用した話し合い活動の工夫を通して～

特別研修員 生徒指導、教育相談 鹿田 知弘（中学校教諭）

目指す生徒像 一人一人が互いに認め合える生徒



互いに意見を認め合いながら友達と話し合っていく。

自分の意見を聞いてもらえて安心できるようになった。

話をつなげたら、クラスで取り組むことについて一人一人の意見を大事にしながらまとめられたよ。

意見が違って共感して聞いてもらえるから安心するな。

相づちをうって聞いてもらえると、自分の意見が大切にされている感じがする。

自分の考えを書き込んで発表したらうまくいったよ。

学んだスキルを使って、一人一人の意見を大切に話し合いをしよう。



認め合う活動の設定（スキルの定着化）

スローガン達成のためにクラスで協力したことを振り返り、互いのよさについて認め合う活動

事後の活動

まとめる

ステップⅢまとめる場面

「話をつなげるスキル」を活用し、一人一人の意見をまとめる活動

「○と△○とは一緒だから、□にまとめたいと思います」と、話をつなげたよ。



比べ合う

ステップⅡ比べ合う場面

「共感のスキル」を活用し、互いの意見について共感し、比べる活動

「私の考えとは違うけど、あなたの○○の部分がとてもいいね」と共感できたよ。



出し合う

ステップⅠ出し合う場面

「聞くスキル」を活用し、互いの意見を聞く活動

「なるほど」「うん、うん」「確かに」などを使って聞こう。



つかむ

課題をつかむ場面

ICTを活用し、自分の考えを入力する活動

自分の考えを入力して、文章を見ながら発表しよう。



手立て②

ソーシャル・スキル・トレーニングとICTを活用したきめ細かな話し合い活動の場の設定

議題：スローガンを振り返り、合唱祭に向けてクラスで取り組むことを決めよう

事前の活動

手立て①

実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニングの設定

人間関係に不安を抱える生徒の実態から、「聞くスキル」「共感のスキル」「話をつなげるスキル」のトレーニングを取り入れよう！

フィードバック（具体的に褒め合う）

ロールプレイ（自分でやってみる）

モデリング（教師のまねをする）

インストラクション（課題を知る）



「聞くスキル」のモデリングの様子

ソーシャル・スキル・トレーニングの流れ

教師の願い

よりよい人間関係づくりをしてほしい。生徒が安心して過ごせる居場所づくりを行う必要がある。

成果

- 学んだスキルとICTを活用し、話し合い活動を設定したことで、一人一人の意見を大切に、互いに認め合いながら話し合い活動を行うことができた。
- ICTを活用し、一人一人の発言する時間を確保したことで、安心して意欲的に発言しようとする姿が見られた。

生徒の実態

人間関係が限定的。関係を新しく築くことが不安。人間関係を起因とした不登校傾向の生徒が多い。

課題

- 事前の活動でソーシャル・スキル・トレーニングを行う際には、本時の内容をさらに深めるために焦点化した活動を行う必要がある。
- 学んだスキルの定着を図るために、生徒同士がフィードバックできる場の設定を継続していく必要がある。

